

全国協議会 ニュース

2025年8月1日発行 第396号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：梅田正造 題字：仲田順和
https://www.marow.or.jp E-Mail:office@marow.or.jp

献血の輪、万博から世界・次世代へ!

6月22日(日)大阪・関西万博(2025年日本国際博覧会)会場で行われた、ライオンズクラブ国際協会335-B地区主催・ミライ献血会議において、当会で活躍中の大学生のチームが、予選を勝ち抜いた11組による決勝戦でプレゼンテーションを行いました。参加者の想い・感想が寄せられましたので紹介します。(NPO 法人関西骨髄バンク推進協会・浅野祐子)



左から：田中さん、細川さん、廣田さん

今回は、献血者数増加に向けて、体験やセミナーの実施、国際的な赤十字の連携による輸血用製剤の安定供給を提案しました。私は、献血と骨髄バンクは切っても切れない関係だと考えています。つまり、骨髄バンクの登録者数の増加を図るためには、献血者数の増加が不可欠だということです。今回は残念ながら受賞はできませんでしたが、これからもドナー登録説明員とし



て、献血と骨髄バンクの普及に取り組みたいと考えています。

(関西大学2年 廣田知)

献血推進の発表に参加し、若者や世界に献血を広げようと真剣に考える学生の多さに驚きました。ラブラッドの改善や、献血をテーマにしたゲームの考案、輸血者の声を届ける献血制度など、斬新なアイデアに感心しました。輸血経験のある私にとって、命を支え

る献血の大切さを改めて実感し、活動に取り組む皆さんへの感謝の気持ちが強まりました。私自身も発表を通して、経験や想いを伝えられたことにやりがいを感じました。

(関西学院大学4年 田中美羽)

万博会場での新献血プレゼンは、緊張しつつも記憶に残る貴重な経験となりました。残念ながら受賞には至りませんでしたが、3人で協力して入念な準備を行った甲斐もあり、自分たちの言葉で献血の重要性を伝えることができたと思います。また、同世代の斬新なアイデアや熱い想いに刺激を受けたことで、骨髄バンクと献血の大切さを次世代へ繋ぐために、より一層自分ができることに尽力したいと考えるようになりました。

(関西大学4年 細川渚)

「ライオンズフェスタ2025—ミライ献血会議—」は「ミライに贈る新たな献血の仕組みを創り上げよう!」と題し献血の促進に大きく寄与してきたライオンズクラブが、献血を次代につなげていくために、さまざまな手法で献血を知り、体験する機会として開催されています。

「白血病と言われたら」HCTCを通して活用

ハンドブック「白血病と言われたら」第7版が5年振りに改訂発行されました。1999年発行の初版から「誰が読んでも理解しやすい内容、闘病に役立つ実践的な内容」という方針で編集されています。

第6版から始まった無料ダウンロードサービスも毎年1,600件もの利用がありました。患者さんの闘病の支えになっているということがわかります。

第7版は全国の認定移植コーディネーター(HCTC)に送付しました。患者さんのより近くに直接届けたいという思いとともに、HCTCの方を軸

にして、血液内科の医療関係者やソーシャルワーカーなど、患者さんを支える関係者の皆様と共有してもらうことを目的としています。

同時に佐藤さち子基金などの各種リーフレット、患者支援活動に関するご案内も送付しました。これにより、全国協議会の実務的な活動が広く関係者の皆さんに広がることを期待しています。

今回の企画は専門HCTCである札幌北楡病院移植医療支援科長の山崎奈美様のご理解とご協力により実現しました。心より感謝申し上げます。

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

(MONTHLY JMDF(7月15日発行)より抜粋)

■日本骨髄バンクの現状(2025年6月末現在)

	5月	6月	現在数	累計数	
ドナー登録者数	2,906	2,748	564,425	1,003,822	
患者登録者数	189	197	1,748	71,554	
採取数	骨髄	57	54	—	27,210
	末梢血幹細胞	25	28	—	2,535
	合計	82	82	—	29,745

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

■6月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/472人、献血併行型集団登録会/2,235人、集団登録会/14人、その他/27人

■6月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 5,301人/20代 98,995人/30代 137,640人
40代 208,954人/50代 113,535人

■6月の20歳未満の登録者575人

(注)数値は速報値のため訂正する場合があります。

仕事と治療の両立支援～ブリッジの活動紹介～



この度は、設立35周年「2025全国骨髄バンクボランティアの集いin名古屋」が盛会のうちに開催されましたこと、心よりお祝い申し上げます。ブリッジも連携する団体の一つとして登壇の機会をいただき、誠にありがとうございました。

骨髄バンク事業は、多くの命を救うだけでなく、自治体、医療機関、民間団体、ボランティアの方々が連携し、助け合いの文化を根付かせています。

命をつなぎ、希望を届けるこの活動は、社会にとってかけがえのないものです。さまざまな分野で粘り強くこの活動に尽力される皆様の深い思いやりと誠実さに、心から敬意を表します。

医療の進歩により、かつては治療が難しかった病気を経験しても、質の高い日常生活を送れることが増えてきました。ブリッジでは、10年以上にわたり仕事と治療の両立支援を進めてきました。望んだわけでもなく、ある日突然「患者」となったとき、人は初めて出会う自分の変化に戸惑い、途方に暮れます。仕事や日常生活とどう向き合うのか、さまざまな思いが重なりブリッジの活動は始まりました。病気も治療も個性が高く、万人に共通する解決策はありません。一人ひとりの在り方と向き合い、環境を整え、人生を

丁寧に紡いでいくことが求められます。ブリッジは医療機関や支援機関と連携し、自分自身が納得できる人生を選択し、社会の中で能力を発揮し続けられるよう支援しています。

骨髄バンク事業もブリッジの活動も、多くの人々や団体が協力し、異なる専門性や情熱を持つ人々が手を携え、新しい価値を生み出すことで、社会の発展につながるものと思います。今回はそれを実感する素晴らしい出会いの機会でもありました。この出会いが患者さんのより良い人生と希望ある未来へと結びつくことを願っています。これからも皆様と協力し、支え合いながら一層努力してまいりますので、ブリッジの支援活動にもぜひご助力を賜りますようよろしくお願いいたします。

(一般社団法人仕事と治療の両立支援 ネットーブリッジ 理事 加藤映子)

市民に育てられた白血病克服への想い

1983年5月、荻村孝氏(32歳)が慢性骨髄性白血病との厳しい闘病生活の末永眠致しました。孝氏は大学卒業後アメリカに留学し、帰国して家業を継ぎ、結婚し、これから人生が開けるという矢先に発病し帰らぬ人となりました。孝氏を失ったご両親の荻村一氏、和代氏は、悲しみが癒されぬ5年の日々を送った後、「愛する息子を奪った白血病を撲滅し、同じ悲しみを繰り返させたくない。これからやっと社会のお役にたつという時に他界した息子のために、何か息子の名前で社会に貢献したい」という思いが浮かび、5,000万円を基金として寄付したいとの考えが固まりました。

一方、東京大学病院の小児科医師として、白血病の子供達の治療に情熱を注いでいた水谷修紀氏(東京科学大学名誉教授・本基金運営委員長)は、専門的研究を希望して、イギリスの白血病研究の権威メル・グリーブス先生の門を叩き、1984年から86年まで留学しました。留学後、メル・グリーブス先生の研究施設は全て一般からの寄付で賄われているイギリス白血病財団が運営しており、その施設が日本人の



生前の荻村孝氏。まじめで、明るい将来を囑望される青年でした。

水谷医師に研究の機会を与えてくれたことを知り感銘を受けました。帰国後、水谷氏は民間からの寄付で国の手の届かないところをカバーし、やる気あって優秀な医師の研究を支える為に日本白血病研究基金の設立運動を始めました。

日本白血病研究基金は、荻村氏ご夫婦や水谷氏初め、多くの患者・家族と医療従事者の白血病撲滅への熱意によって設立され、1990年より研究助成を開始し、まもなく厚生労働省の認可を受けました。その後も多くの市民の方々のお力添えで成長を続けました。2024年で、研究助成金総額は3億8,920万円となり、助成を受けた受賞者は述べ526名となりました。受賞者の方々による幅広い分野でのご活躍により、白血病克服への確固たる道が開かれてきたとの確信が深まりました。(NPO法人白血病研究基金を育てる会 専務理事/事務局長 小川公明)



2024年 認定特定公益信託 日本白血病研究基金 贈呈式

マンスリーサポーターとして ご支援ください

全国協議会ではマンスリーサポーター(継続寄付)を募集しています。マンスリーサポーターはREADYFOR(寄付金募集のプラットフォーム)を利用して、月々1,000円からのクレジット決済で行う支援で、大きな負担感なく継続的な患者さん支援にご協力いただけます。通常の寄付同様に税制上の優遇も受けることができます(1年間の寄付総額分の「寄附金受領証明書」が翌年1月に発行されます)。

お寄せいただいた支援は患者支援基金をはじめ、さまざまな患者支援活動、啓発活動に使わせていただきます。皆様もぜひこの情報を拡散してください。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



アクアスロン大会で啓発

7月5日(土)、西武園ゆうえんち(埼玉県所沢市)において、「チームケズカップアクアスロン in 西武園ゆうえんち」が開催され、全国協議会もブースを出展し、啓発活動を行いました。アクアスロンとはトライアスロンのうち、ランとスイムの2種目によりタイムを競うもので、自転車がなく

も参加できるために、参加選手の裾野が広いことが特徴です。

全国協議会の岩城光英顧問がトライアスロンジャパンの会長を務めていらっしゃることから、「大会の会場で啓発活動をしてみたら？」というご提案をいただき実現したもので今回の参加は昨年に引き続き2回目となります。

入門編ということもあり小中学生など若い選手が中心で、そのご家族やご友人など約500人の方に骨髄バンクを知っていただくための啓発資料をお渡しすることができました。レース後、表彰式が始まるまで、木陰で休みながら日本赤十字社発行の啓発マンガ「ぞうけつおかん」「ドナーってなに？」を読んでいる多くの選手たちの姿が印象的でした。

シリーズ 「顧問に聞く!」 第1回 岩城光英顧問

全国協議会には6人の顧問がいらっしゃいます。全国協議会の活動に直接携わることはありませんが、理事会の諮問を受けた場合、顧問の知見を活かして助言を行うことがその役割です。顧問の皆様は活動なさるそれぞれの領域で深い知見をお持ちの方ばかりで、必要になった時に全国協議会に協力してください。顧問の皆様の横顔をシリーズで紹介していきます。



プロフィール
岩城光英 (いわきみつひで)
上智大学法学部卒
いわき市議、福島県議、いわき市長、参議院議員、国土交通大臣政務官、内閣官房副長官、法務大臣を歴任。現在、公益社団法人トライアスロンジャパン会長。

——全国協議会の活動と接点を持つようになったきっかけを教えてください。
岩城光英顧問(以下、岩城): 全国協議会の陽田さん(陽田秀夫顧問)とは、もともと地元いわき市でJC(日本青年会議所)仲間でした。1991年、私はいわき市長を務めていました。陽田さんの陳情を受け4,000万円をいわき市として予算化し、1992年11月にいわき市立磐城共立病院(現いわき医療センター)に無菌室を完成させました。日本における骨髄バンク事業の黎明期の頃の話です。1998年には参議院議員に

当選しましたが、「当選したらぜひ『骨髄バンク推進議員連盟』(現骨髄・さい帯血バンク・献血推進議員連盟)で活動してくれ」とも言われており、事務局長まで務めました。そして私が政界を引退した翌年、2017年に声がかかり、全国協議会の顧問に就任しました。

——患者さんやボランティアの皆さんに一言お願いします。

岩城: どんなに苦しくてもそれに耐えて回復し、社会復帰を果たしている先輩たちが沢山います。患者さん・ご家族を支えるボランティアの皆さんも大

勢います。患者さんには、希望を持って生き抜いてほしいと思います。

また、献身的にドナー獲得のために尽力されているボランティアの皆さんには感謝しかありません、これからも健康に留意して活動を続けていただきたいと願っています。

——全国協議会や関係機関に対するご意見をお聞かせください。

岩城: ドナー登録促進がしやすい環境作りが必要です。移動交通費は日本骨髄バンクから実費が弁償されますが、地域によって固有の事情があります。柔軟な対応により、説明員の皆さんが活動しやすくなるような配慮も必要です。そして若年層ドナーを増やすことが大切です。また、骨髄提供しやすい環境を整備することを置き去りにしてはいけません。大胆かもしれませんが、ドナー休暇の義務化なども検討されるべきではないかと思っています。全てのことを連動させて、実務的に患者さんのためになるようにしなければなりません。

——貴重なご意見ありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

基金給付を受けた方からのメッセージ

佐藤きち子記念 造血細胞移植患者支援基金

誰しもが健康なまま一生を過ごすことなんて無いと思っていますが、まさか家族が重い病気になることも予想なんてしていません。突然のことで、今後のこと等考える余裕も無く、今、どうしようと切羽詰まった状態で、これから転職しようと色々悩んでいる時に、収入も無く、長期入院を余儀なく

されて、苦しい毎日を過ごさざるを得ませんでした。医療費は大変で、でも必ず支払わなければならないものです。

コーディネーターさんに相談すると、「支援があるので、申請だけでもしてみませんか?」と教えて貰い、申請させて頂きました。

悩みは、自分だけで考えていないで、苦しい時は、はっきりと助けて下さいと声をあげるべきだと思いました。そしてその声に沢山の皆さんが力を下さり、支援を受けることが出来ました。領収書やら書類等揃えるのが自分

では大変だと感じましたが、途中で諦めず、完璧に出来たかどうか不安はありましたが、申請して良かったと考えています。

私に携わっていただいた大勢の方々、支援して下さった大勢の方々皆様に感謝いたします。私も別な形で、支援等出来ることが有れば恩返しではないですが、誰かの力になれば良いなあと思います。

本当に助けていただいて有難うございました。

(東北地方在住 患者さん家族)

各地のたより
各地のたよりを写真添えてお寄せください。

愛知

**滋慶学園 COM グループ
「明日への扉」結団式にて講話**

7月4日(金)、青少年文化センターアートピアにて名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校主催の社会貢献ミュージカル「明日への扉」結団式が行われ、今年も出席させていただきました。

骨髄バンク普及のためにご協力いただいている滋慶学園 COM グループ 滋慶学園「名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校」の学生さんたちが演じる骨髄移植推進キャンペーンミュージカル「明日への扉」は「人の優しさと命の大



切さ」「生きることのすばらしさ」を伝えます。また、このミュージカルは出演者だけではなく、音響・照明・舞台制作・運営など全て学生さんが行います。学生さんたちの力が集結した舞台と言えます。

学生さんたちはお稽古を始めるにあたり、また、本番を迎えるにあたり、骨髄バンクのことや病気のこと、移植のことなどの知識を持ち、モチベーションをあげていきます。今年の結団式はバンクドナーさんからの移植でお元気になった患者さんにもご同行いた

だき、発病から現在に至るまでのおもい、ドナーさんへの感謝の気持ちなど伝えていただきました。脚本・演出の先生、プロデューサーの先生からのメッセージ、各セッションのリーダー紹介と決意表明もあり、学生さんや先生方の意気込みを感じました。

滋慶学園では1992年より骨髄移植推進キャンペーンミュージカルに取り組んでいます。名古屋スクールオブミュージック&ダンス専門学校の開校は2002年、ミュージカルは当時から開催されてきました。終演後、学生さんたちは募金活動を行い、日本骨髄バンクにご寄付いただいています。長きにわたりご支援いただき感謝の気持ちでいっぱいです。今から2026年1月31日(土)、2月1日(日)の本番が楽しみです。

(あいち骨髄バンクを支援する会 水谷久美)

北海道

**おたる運河
ロードレースでPR**

小樽骨髄バンク推進会は、6月15日(日)のおたる運河ロードレース大会にて、ギフトオブライフとハローキティティッシュの配布を行い、その後ランナーとして「骨髄バンクにご協力ください」と書かれたたすきを掛けて完走しPR活動を行いました。

このたすきは、駅伝などに使用する軽い素材のものを当会で独自に注文しています。日本骨髄バンクで貸し出しているたすきはタイムを競うランナーには少々重く負担になるとの声があり、2018年から毎年少しずつ本数を増やして今は30本になりました。

会員だけでなく知り合いのランナーや当日飛び入り参加の方にも掛けて走っていただくようになり、沿道からの「骨髄バンクがんばれー!」の声援にランナー自身が元気をもらえたり、面識の無いランナー同士が合図しあって仲間意識を感じたり、元患者さんやそのご家族からお声掛けもありと、たすきがたくさんの人を繋げてくれました。

また、個人的に他の大会に参加する際でも使用しているので、全国各地の骨髄バンクランナーから「それ、いい

ですね!」と声を掛けられ贈呈するなど、活動の輪が広がっています。

2009年から毎年参加しているこの大会では、当会のメンバー以外にも札幌・小樽のランナーや元患者さんなどが自発的に朝早く集まり、誰が指示するでもなくもテント設営からティッシュ配布、たすきの貸し出しの準備等がスムーズに行われ、頼もしい仲間が増えています。

平日は仕事の都合でなかなか思うように登録会やボランティア活動が行えない当会ですが、楽しみつつ一般の方々を巻き込みながら、まずは骨髄バ



ンクに興味を持ち正しい知識を知っていただき、一人でも多くの登録につながるよう今後もこの活動を続けて行きたいと思います。

(小樽骨髄バンク推進会代表 本間裕子)

賛助会員の皆さま紹介(敬称略)

【一般賛助会員】匿名=千葉

心からのご寄付に感謝申し上げます ●6月21日~7月20日

当協議会への寄付金は税制上の優遇措置を受けられます。

<p>●一般</p> <p>株式会社ゼロナビネクス 現金 100,000円</p> <p>藤波 敬子 現金 10,000円</p> <p>匿名 現金 1,000円</p> <p>●佐藤きち子造血細胞移植患者支援基金</p> <p>本田 真奈美 現金 5,000円</p> <p>日根 和美 現金 5,000円</p> <p>小野塚 照直 現金 10,000円</p>	<p>●志村大輔患者支援基金</p> <p>アオヤマ ナナ 現金 1,000円</p> <p>●募金箱</p> <p>株式会社 クスリのアオキ 現金 1,394,481円</p> <p>株式会社 ナルックス 現金 5,710円</p> <p>株式会社 フクヤ 現金 37,068円</p> <p>株式会社 マルト商事 現金 60,899円</p>	<p>株式会社コスモトレードアンドサービス モバイル営業部 現金 23,800円</p> <p>株式会社コスモトレードアンドサービス 現金 8,312円</p> <p>●つながる募金 現金 4,200円</p> <p>●キモチと。 現金 2,962円</p> <p>●マンスリーサポート 現金 46,000円</p>
---	---	--

活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655

郵便振替口座 00150-4-15754

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
郵便振替口座の振込用紙を郵送いたします。当協議会までご請求ください。